テーマ2

「災害から住民の命を守るには」研修教材

### 【本教材について】

● テーマ: 2. 災害から住民の命を守るには

● 単元名: 1 災害発生の危険性と避難

● 所要時間: 60分程度

### ● 準備:

- 1. 自治体で指定されている避難先をスライドに反映して下さい。(19、23ページ)
- 2. 「3. 安全な避難行動」は、「風水害(p.26~p.31)」と「地震災害(p.32~p.37)」の2種類の【ワークショップ】があります。地域の状況に合わせてご利用下さい。
- 3. 補助教材「ワークシート」、「避難に関するチェックシート」と細マジック(黒と赤)、丸シール(赤と緑)を参加者人数分準備して下さい。
- 4. それぞれの参加者の自宅から避難所までが書かれている地図を準備して下さい(事前に、参加者から居住地域の聞き取りをするか、参加者自身に地図を持参してもらって下さい)。
- 5. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性(自主防 災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど)に応じて、内容の追加・ 削減や修正・変更を検討することで、より良い研修効果が期待できます。
- 6. 実際に研修を行う前に、何人かのグループを作り、練習し合う場を設けることもよい研修とするうえで効果的です。

自主防災組織等のリーダー育成研修

災害から住民の命を守るには

# 災害発生の 危険性と避難

# 学習目標と内容

# ●学習目標

災害発生時にとるべき行動を理解するとともに、情 報収集を通じてどのように安全に避難するかを、自 主防災組織のリーダーとして、住民等に伝えること ができる。

# <目次>

● 災害時にとるべき行動P. 4~7

● 避難に関する情報の収集

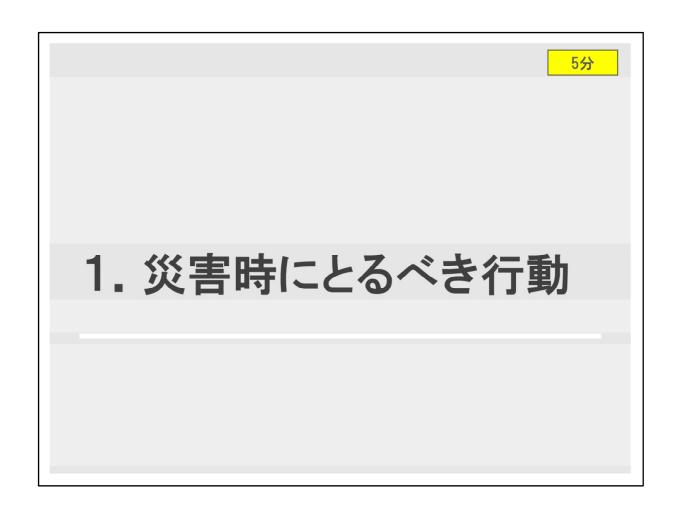
P. 8~24

● 安全な避難行動

P. 25~39

### 【補足説明】

• この単元の目標を伝えます。





### 【補足説明】

自助~共助~公助による災害対応の流れを、「風水害」「地震」に分けて、 それぞれ「→」の流れで説明します。

### 風水害

自助:気象・避難情報等の収集した情報にもとづき、避難が必要な場合は避難。

共助:避難する際、地域の住民にも避難を促す。また足が不自由な方や一人では避難できない方が近くにいれば、地域の住民と協力して避難支援。避難支援を行うときは、あくまでも自分のいのち、安全が第一。

共助:災害による被害が大規模で、避難生活が長期化する場合、避 難所での避難生活となります。在宅避難をしている被災者へ の支援も考慮する必要があります。



### 【補足説明】

• 自助~共助~公助による災害対応の流れを、「風水害」「地震」に分けて、 それぞれ「→」の流れで説明します。

### 地震

自助:地震の揺れを感じたら、身の安全を確保し、その後は家族の

安全を確認。必要に応じて自宅の初期消火、避難を行う。 共助:まずは地域の住民の安否確認。地域の建物や道路、川、上下 水道、電気、ガス等の被害情報の収集。地域のどこかで火災

が発生している場合は初期消火。

崩れた家等に住民が閉じ込められている場合、消防団、消防・自衛隊などと協力して救出・救護。

救出・救護する際は、あくまでも自分のいのち、安全が第一。 危険な状況下では2次災害を引き起こす可能性がある。

共助:避難所への避難誘導、お年寄りや体が不自由な人などへの避

難支援。

共助:災害による被害が大規模で、避難生活が長期化する場合、避 難所での避難生活となります。在宅避難をしている被災者へ

の支援も考慮する必要があります。

# 1. 災害時にとるべき行動 - まとめ -

・自助・共助の部分は自主防災組織がその啓発も担います

7

### 【補足説明】

・ 中項目「1. 災害時にとるべき行動」で学んだことをまとめます。

30分

# 2. 避難に関する情報の収集

避難の原則は、「自らの判断で避難する」ことです 避難するかどうかを決めるのはあ なた自身です

9

### 【補足説明】

- 受講者に、「避難の原則は、「自らの判断で避難する」ことです。避難する かどうかを決めるのはあなた自身です。」と投げかけます。
- 受講者に、「「自らの判断で避難するには、まず何が必要でしょうか?」と 問いかけます。

(何人かの受講者を指名して、答えてもらってもよいでしょう。)

# 避難に関する情報

# 避難判断の材料となる、災害の種類に応じた情報を理 解しましょう

避難に関する情報チェックシート

## 「避難」に関する情報

- 避難情報等
- 洪水に関する情報
- 土砂災害に関する情報

「避難に関する情報チェックシート」も参考にして下さい。

区分	野城レベル	物能の名称	とるべき行	
避	3	遊覧準備・高齢者等避難開 労	避難に時間を要する人 (ご為齢の方、障がいのある方、乳 効児等とその支援者は、避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。	
難情	4	<b>逆</b> 舞勧告	速やかに延輩先へ延載しましょう。 公的な影響場所までのお動が危険と思われる場合は、近くの	
報等	4	避難指示 (緊急)	<ul><li>公的な最輕陽所味での移動が恒速と思われる場合は、近くの 安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。</li></ul>	
	5	災害発生情報	すでに <b>災害が発生</b> している状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。	
	2	氾濫注意情報	避難に構え、ハザードマッフ等により、自らの <b>避難行動を顧</b> 課しましょう。	
	2	洪水警報の危険度分布 (注 意)		
洪	3相当	氾濫警戒情報		
水に		洪水警報	- 避難に時間を要する人(ご合飾の方、静がいのある方、) 効児等とその支援者は、避難をしましょう。 - その他の人は、避難の準備を整えましょう。	
関す		洪水警報の危険度分布 (警 或)		
る情	4相当	氾濫危験情報	連 <b>やかに避難先へ避難</b> しましょう。 一公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの 安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	
報		洪水警報の危険度分布 (非常に危険)		
	5相当	氾濫発生情報	すでに <u>災害が発生</u> している状況です。 命 <b>を守るための順善の行動</b> をとりましょう。	
		大雨特別警報 (浸水害)		
	2	土砂災害に関するメッシュ 情報 (注意)	遊覧に描え、ハザードマッフ等により、自らの <b>避難行動を確</b> <b>返</b> しましょう。	
土砂災害に関する	3	大雨警報 (土砂災害)	避難に時間を要する人(ご高齢の方、肺がいのある方、乳 効用等とその支援者は、遅難をしましょう	
	当	土砂災害に関するメッシュ 情報 (警戒)	<b>幼児芸と子の支援者は、延載</b> そしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。	
		土砂災害警戒情報		
		土砂災害に関するメッシュ 情報 (非常に危険)	「速やかに避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの 」安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	
情報		土砂災害に関するメッシュ 情報 (極めて危険)		
	当 指	大雨特別警報(土砂災害)	すでに <b>災害が発生</b> している状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。	

10

### 【補足説明】

• これは避難に関する情報チェックシートです。自治体からの避難情報等、洪水に関する情報、土砂災害に関する情報のそれぞれにどんな情報があるか、またその情報に基づいてどんな行動をとるべきか、が一覧になっています。

# 情報の入手方法

様々な手段を使って情報を入手し、地域の住民に正確な情報を伝達しましょう

• 自治体からの避難情報を待っていると、避難が遅れることもあるため、自 ら情報を入手するよう心がけましょう。

避難に関する情報 (避難勧告等) 洪水に関する情報 (洪水警報等)

土砂災害に関する情報 (避難勧告等)

複数の情報の入手方法を記載しています。研修を行う地域にあった情報の入手方法をカスタマイズしてください。











テレビ

ラジオ

市区町村HP

防災アプリ

緊急速報メール

11

- 防災情報は、様々な手段で提供されているので、自分や地域にあった手段で 情報を入手しましょう。
  - テレビ・ラジオ
    - ✓ NHKなどが、気象情報や自治体の避難情報などを放送しています。
    - ✓ 災害による被害の状況などの把握もできます。
  - 市区町村のホームページや防災アプリ
    - ✓ 自分の住む地域の避難情報、災害の状況などが確認できます。
    - ✓ 避難所の開設状況、避難所の場所、給水や物資の供給などの情報も掲載される場合があります。
  - 緊急速報メール
    - ✓ 緊急地震速報や避難情報が、携帯電話にメールで配信されます。
    - ✓ メールが配信されたら直ちにその情報にもとづき、避難や安全 確保等の行動をとりましょう。

# 防災気象情報 一風水害一

# 風水害から身を守るため、気象情報に注意しましょう

# 気象特別警報•警報•注意報

気象庁が大雨や強風などによって災害が起こるおそれやその重大さに 応じて発表

種 類	気象状況	内 容	警戒レベル (相当)
注意報	大雨、洪水、強風、高潮など	災害の起こるおそれがある 場合に発表	2
警報	大雨、洪水、暴風、高潮など	重大な災害の起こるおそれ がある場合に発表	3
特別警報	大雨、暴風など	重大な災害の起こるおそれ が著しく大きい場合に発表	5

情報の入手方法 : テレビ、ラジオ、防災アプリなど

参考:気象庁ホームページ「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/alertlevel.html

12

- 特別警報
  - ✓ 特別警報は、これまでにない危険が迫っている場合に発表されます。 雨であれば数十年に一度の大雨など、重大な危険が差し迫った異常な 状況です。
  - ✓ 発表された時点で、既に何らかの災害が起こっている可能性が極めて 高いです。
  - ✓ 例えば、広範囲に渡り、洪水や浸水などの被害をもたらした令和元年 10月の台風19号などがあります。
  - ✓ 特別警報が発表されたら、直ちに命を守る行動をとって下さい。
- 警報・注意報
  - ✓ 気象庁は、大雨や暴風などによって発生する災害の防止・軽減のため、 気象警報・注意報などの情報を発表します。

# 洪水・土砂災害に関する情報 一風水害一

# 地域によっては、洪水や土砂災害に関する情報が重要 になります

### 洪水に関する情報

### 指定河川洪水予報

洪水予報の種類	求める行動	警戒レベル
〇〇川氾濫注意情報(洪水注意報)	氾濫発生に注意	2
〇〇川氾濫警戒情報(洪水警報)	避難準備、避難開始など	3
〇〇川氾濫危険情報(洪水警報)	避難、いのちを守る行動	4
〇〇川氾濫発生情報(洪水警報)	氾濫水への警戒	5

### 土砂災害に関する情報

情報の名称	求める行動	警戒レベル
土砂災害警戒情報	避難、いのちを守る行動	4

情報の入手方法 : テレビ、ラジオ、防災アプリなど

13

### 【補足説明】

参考:気象庁ホームページ

• 地域の河川や土砂災害の危険が高いなど、地域特性に応じて、注目する情報 とその内容をあらかじめ確認しておくことが重要です。

氾濫注意情報 (洪水注意報)

- ✓ 氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる状況。
- 氾濫警戒情報 (洪水警報)
- ✓ 一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる状況。
- 氾濫危険情報 (洪水警報)
- ✓ いつ氾濫してもおかしくない状況。
- 氾濫発生情報 (洪水警報)
- ✓ すでに氾濫が発生している状況。
- 土砂災害警戒情報
- ✓ 大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況。
- 土砂災害は予測が困難な災害のため、危険を感じたら、躊躇することなく自 主避難することが重要です。
- 気象庁ホームページ「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/alertlevel.html

# 風水害の避難情報等 一風水害一

# 避難を判断する上で、最も重要な避難に関する情報を 理解しましょう

## L	数学1、* 1					
警戒レベル	種類	気象情報(例)	避難行動			
1	特になし	早期注意情報	災害への心構えを高める			
2	特になし	大雨·洪水·高潮注意 報、氾濫注意情報	避難に備え自らの避難行動を確認する			
3	避難準備• 高齢者等避	大雨•洪水警報、氾 濫警戒情報、高潮注	高齢者など避難に時間を要する方とその支援者は 避難を開始			
	難開始	意報	その他の人は避難準備し、自主的に避難			
	避難勧告		避難が必要な住居者等は全員速やかに避難			
4		土砂災害警戒情報、	外に出ることによってかえって命に危険が及ぶよう な状況では、近くや自宅内のより安全な場所			
4		氾濫危険情報、高潮 特別警報、高潮警報	緊急に避難			
	(緊急)		避難場所等への避難に限らず、状況に応じて、近く や自宅内のより安全な場所へ避難			
5	災害発生情報	大雨特別警報	既に災害が発生している状況であり、命を守る最善			
5		氾濫発生情報	の行動をとる			

情報の入手方法 : テレビ、ラジオ、防災無線など

令和元年度から導入 14

参考:内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」

### 【補足説明】

• 防災情報について、直感的にわかりやすいように、5段階の警戒レベルに分かれています。

### 警戒レベル1

- 気象庁等から発表される早期注意情報 (警報級の可能性) が該当。 警戒レベル 2
- 気象庁等から発表される、洪水注意報、大雨注意報、氾濫注意情報等が該当。

警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始

- 気象情報では、洪水警報、大雨警報、氾濫警戒情報等が該当。
- 警戒レベル4 避難勧告、避難指示(緊急)
- 気象情報では、氾濫危険情報、土砂災害警戒情報等が該当。

警戒レベル5 災害発生情報

- 気象情報では、氾濫発生情報、大雨特別警報が該当。
- 「災害発生情報」(警戒レベル5)は、災害が発生していることを把握した場合に可能な範囲で発令するものであり、必ず発令されるものではないことに留意して下さい。
- 「避難指示(緊急)」(警戒レベル4)は、地域の状況に応じて緊急的又は 重ねて避難を促す場合などに発令されるものであり、必ず発令されるもので はないことに留意して下さい。
- 気象庁ホームページ「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/alertlevel.html

# ■マイ・タイムラインを活用した避難判断(東京都) ○いつ避難に備えた行動をとるのか、一人一人があらかじめ決めたもの ○雨や風は事前に予測できる為、風水害が発生する前に避難が可能

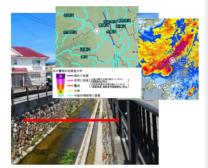
- マイ・タイムラインを活用した避難判断(東京都) このように、風水害が発生するかもしれない「3つの気象状況」(台風が 近づいているとき、大雨が長引くとき、短期間の急激な豪雨が発生すると き)用に、それぞれ専用のシートを使い避難行動を決めておくことによっ て避難判断を明確にすることができます。
- 参考:東京都防災ホームページ「東京マイ・タイムライン」 https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/mytimeline/index.html

# 【事例】「避難判断するタイミング」についての取組

# ■避難スイッチを活用した避難判断

(兵庫県宝塚市川面地区)

- ○自分の身を自分で守る為、地域の災害目印(過去の経験 や前兆現象など)やいろんな災害情報(気象情報や河川 情報など)を利用して災害時の行動タイミングを前もって 考える取り組み
- 〇地区を流れる小さな川の水位が 2/3を超え、雨が継続する場合を 避難スイッチにした



参考:兵庫県ホームページ「防災スイッチの取組事例」

16

- 避難スイッチを活用した避難判断(兵庫県宝塚市川面地区) このように、地域の状況や経験、住民の感覚を活用し避難するタイミング を前もって決めておくことで避難判断を明確にすることができます。
- 参考:兵庫県ホームページ「防災スイッチの取組事例」
   https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk42/documents/13siryo10takenouti.pdf

# 風水害発生前後の避難行動の流れ 一風水害一

気象情報や、市町村が発令する「避難に関する情報」 に注意し、タイミングを逸することなく避難することが重 要です

		警戒レベル	市町村が発令する避難情報	警戒レベル相当の情報(例)	
危険の前ぶれ	準 備	2	避難行動の確認	氾濫注意情報 大雨注意報 等	
逃げどき	避難	3	避難準備•高齢者等避難開始	氾濫警戒情報 大雨警報 等	
	速やかに		避難勧告	氾濫危険情報	
	避難	避難指示(緊急)	避難指示(緊急)	土砂災害警戒情報 等	
**	命を守る	5	災害発生情報	氾濫発生情報	
洪水発生 土砂災害発生	行動			大雨特別警報 等	

【補足説明】

- 避難するタイミング
  - ✓ 避難に時間を要する場合は「警戒レベル3」相当で避難。
  - ✓ 全員速やかに避難するタイミングは、「警戒レベル4」相当。
  - ✓ 避難指示(緊急)が発令されたら、命を守る行動をとる。
- 「警戒レベル5」災害発生情報や、氾濫発生情報、大雨特別警報が発表されてから、避難するのでは遅いです。早めの避難が必要です。
- 避難できない場合は、自宅の2階以上に移動するなど、少しでも危険の少ない場所へ避難します。
- 気象庁ホームページ「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/alertlevel.html

17

# 避難する場所

# 避難する場所は、そのときの状況によって変わります

緊急度

指定緊急避難所への立退き避難

原則は指定緊急避難所への「早期の立退き避難」 事前の準備と早めの判断・行動が必要

近隣の安全な場所 への立退き避難

浸水が既に始まっていて移動が危険 避難経路の途中に土砂災害の恐れがある

家の中の安全な場 所で屋内安全確保 外に出る方がかえって危険な場合は、その時点 でいる建物にとどまる

建物内のより安全な場所(上の階、山から離れた部屋)へ移動する

\*

土砂災害発生

【補足説明】

• 地域の河川や土砂災害の危険が高いなど、地域特性に応じて、注目する情報 とその内容をあらかじめ確認しておくことが重要です。

氾濫注意情報 (洪水注意報)

- ✓ 氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる状況。
- 氾濫警戒情報 (洪水警報)
- ✓ 一定時間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる状況。
- 氾濫危険情報 (洪水警報)
- ✓ いつ氾濫してもおかしくない状況。
- 氾濫発生情報 (洪水警報)
- ✓ すでに氾濫が発生している状況。
- 土砂災害警戒情報
- ✓ 大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況。
- 土砂災害は予測が困難な災害のため、危険を感じたら、躊躇することなく自主避難することが重要です。

18

# 風水害の避難先

避難先は、安全な場所であることが重要 災害の種類に応じて、安全な場所(避難先)は違います 安全な地域の親戚や友人の家に避難することも有効で す

本スライドの赤枠・赤字の内容は、研修を行う地域の情報に置き換えて下さい。

各種災害における避難先について

- ① 【浸水害】市町村が地域毎に定める避難場所
- ② 【土砂災害】市町村が地域毎に定める避難場所 または堅牢な建物内の安全な場所

参考:消防庁「自主防災組織の手引き」

19

- 各種災害発生時の避難先の考え方を説明します。
- 大規模地震が発生した場合、基本的には、一時集合場所などの安全な場所に まず避難し、自宅が住めない状況になった場合や自宅にいることが著しく不 安な場合などは指定避難所に避難します。
- 「指定避難所」とは、生活する場所が無くなってしまった方が一定期間の生活を送る施設です。
- 大規模地震が発生した後、津波の被害が想定されている地域では、直ちに高 台や津波避難施設に避難します。
- 大雨等による浸水害発生の恐れがあるときは、「指定緊急避難場所」などの 安全な場所に立ち退き避難するか、垂直避難を行います。
- 垂直避難とは、建物内の安全を確保できる指定階以上に避難すること。高さ は、住んでいる場所の浸水想定に応じて決まります。
- 土砂災害の恐れがあるときは、「指定緊急避難場所」などの安全な場所に立ち退き避難をするのが原則です。「指定緊急避難場所」まで移動することが、かえって命に危険を及ぼしかねないと判断される場合は、「近隣の安全な場所」(堅牢な建物、山からできるだけ離れた部屋など)へ移動したり、「屋内安全確保」(屋内の高いところで山からできるだけ離れた部屋などへの移動)をとすなど、状況に応じて対応します。

### 風水害における自主防災組織の主な活動 一風水害一 早期に情報伝達や避難等の行動をとり、被害を軽減す ることが重要です 自主防災組織に期待され 災害時の状況 る活動・役割 ・住民への避難の呼掛け 気象情報に注意し、 災害発生前 ・被害を抑える行動 避難情報に備えて行動 (土嚢積み等) ・地域の災害状況に注意 ・避難支援 風水害発生 ・早期に避難を完了し、 自身と家族の安全確保 - 水防活動 避難所等で住民の安否 ・安否や被害についての 確認等を実施する時期 災害発生後 情報収集 - 救出活動 ・状況に応じて、水防活 負傷者の手当等 動や救出・救護を実施 - 避難所運営

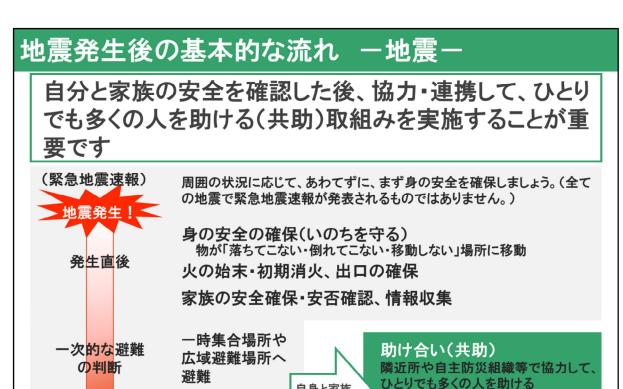
### 【補足説明】

参考:消防庁「自主防災組織の手引き」

- 風水害による地域の被害を抑えるためには、早期の情報伝達と事前行動が必要です。
- 土砂災害等の前兆現象などにも注意し、異常があれば地域で自主避難すると ともに、市町村へ通報します。
- 気象情報や避難情報に注意し、自力での避難が困難な避難行動要支援者の避難支援を行います。
- 水防活動とは、堤防等の巡回・点検、土のう積みなどです。

20

20



参考:東京都「東京防災」

避難生活

# 自身と家族の安全が確認

できたら

②【主な活動】

災害対策本部の立ち上げ、安否確認、救出・救助、初期消火、避難行動要支援者の避難誘導、避難所開設・受入など

21

### 【補足説明】

- これまでは、風水害の場合の避難行動に必要な知識を学びました。次は、地震が発生した場合の避難行動等の流れを説明します。
- ・ 地震は、風水害と異なり事前に予測することが困難なため、事前に避難することができません。地震が発生した後、どのような行動をとるべきか、その流れを説明します。

### 発生直後

✓ まずは、自分の身を守ることが第一。

避難所避難•

在宅避難など

- 一次的な避難の判断
- ✓ その時自分がいる場所が少しでも危険だと感じたら、避難する。

### 避難生活

- ✓ 自宅が被災し、滞在できない状況であれば、避難所で、
- ✓ 自宅に滞在できるようであれば、在宅避難。
- 自身と家族の安全が確認できたら
- ✓ 共助を行う場合でも、自分の安全が第一です。

# 地域特性に応じた対応の違い 一地震一

地域特性に応じて対応の優先度が異なることがあるため、日頃から地域の特性を把握することが重要です



沿岸部・津波被害が想定されている地域

最優先で津波から逃れること ができる場所へ避難する



山間部・土砂災害の危 険が想定されている地 域

火の始末後に、土砂災害の 危険がない場所へ避難する



木造住宅密集地域・延 焼火災の被害が想定さ れている地域

初期消火でも食い止められないと判断した場合は、すぐに 火災と煙の影響が少ない場 所へ避難する

22

### 【補足説明】

• 沿岸部・津波被害が想定されている地域

津波による浸水被害が想定されている地域では、ハザードマップを作成している自治体もあるので、事前に浸水地域や避難場所を確認しておくようにします。

津波の高さが20~30cmであっても、健康な大人でも流される危険があります。

津波は川を遡上する場合もあります。(東日本大震災では、河口から 49km上流まで達した)

とにかく「早く」「高い場所」に避難しましょう。

山間部・土砂災害の危険が想定されている地域

地震によって地下の深いところまで地盤がゆるむ場合もあります。 その状態で雨が降ると、少ない雨でも土砂災害が発生する危険があります。 阪神・淡路大震災では、六甲山地で、地震後の降雨により1000か所以上 の山腹が崩壊しました。

• 木造住宅密集地域・延焼火災の被害が想定されている地域

木造住宅密集地域には古い住宅も多く含まれ、大きな地震が発生すると倒壊する可能性が高いだけでなく、火災が発生する危険も高いです。

火災が発生すると延焼拡大の懸念があり、倒壊した住宅が道をふさぎ、消火・避難が困難となり被害が甚大になる危険性があります。

# 地震災害の避難先

避難先は、安全な場所であることが重要 災害の種類に応じて、安全な場所(避難先)は違います 安全な地域の親戚や友人の家に避難することも有効で す

本スライドの赤枠・赤字の内容は、研修を行う地域の情報に置き換えて下さい。

各種災害における避難先について

- ① 【地 震】市町村が地域毎に定める避難場所
- ② 【津 波】高台や津波避難施設(または2階以上の建物)

参考:消防庁「自主防災組織の手引き」

23

- 各種災害発生時の避難先の考え方を説明します。
- 大規模地震が発生した場合、基本的には、一時集合場所などの安全な場所に まず避難し、自宅が住めない状況になった場合や自宅にいることが著しく不 安な場合などは指定避難所に避難します。
- 「指定避難所」とは、生活する場所が無くなってしまった方が一定期間の生活を送る施設です。
- 大規模地震が発生した後、津波の被害が想定されている地域では、直ちに高 台や津波避難施設に避難します。
- 大雨等による浸水害発生の恐れがあるときは、「指定緊急避難場所」などの 安全な場所に立ち退き避難するか、垂直避難を行います。
- 垂直避難とは、建物内の安全を確保できる指定階以上に避難すること。高さ は、住んでいる場所の浸水想定に応じて決まります。
- 土砂災害の恐れがあるときは、「指定緊急避難場所」などの安全な場所に立ち退き避難をするのが原則です。「指定緊急避難場所」まで移動することが、かえって命に危険を及ぼしかねないと判断される場合は、「近隣の安全な場所」(堅牢な建物、山からできるだけ離れた部屋など)へ移動したり、「屋内安全確保」(屋内の高いところで山からできるだけ離れた部屋などへの移動)をするなど、状況に応じて対応します。

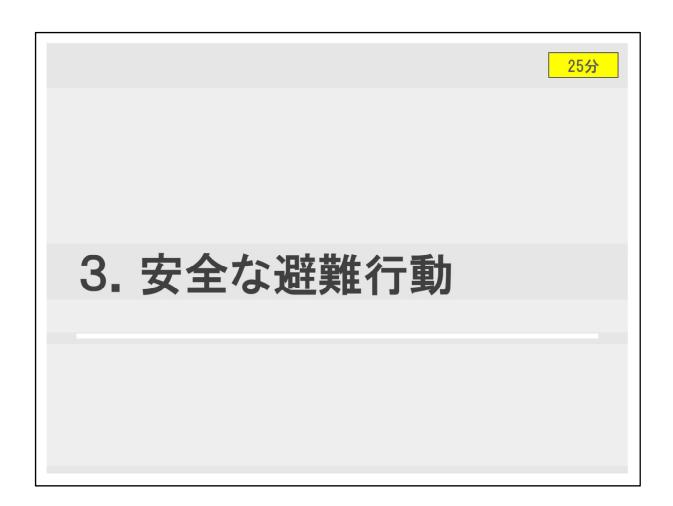
# 2. 避難に関する情報の収集 - まとめ -

・避難についての知識と情報を理解し、 住民一人ひとりがいつ、どこに避難す るか判断できるように啓発しましょう

24

### 【補足説明】

• 中項目「2. 避難に関する情報の収集」で学んだことをまとめます。



ワークショップ

# 皆さんの自宅周辺の災害リスクを確認する方法を学びま しょう

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、研修を行う方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。

参加者の皆さんが研修後に、 地域住民の皆さんと一緒に行うと より効果的です

26

- 受講者に、「では、今からワークを行います」と宣言します。
- 「自宅周辺の災害リスクを確認する方法を学びましょう」と投げかけます。
- 受講者に、「このワークは、地域住民の皆さんと一緒に行うと効果的」と伝えて、活用するよう促します。



# 自宅周辺の風水害リスクチェック

# 【個人作業】 <5分> ハザードマップを確認し、ワークシートを記入

- ①ハザードマップ上の自宅 の位置を確認しましょう
- ②ワークシート(風水害)を 記入しましょう

	資料1(補助牧材1限目)
フークシート(風水害)	
自分の地域における大雨や台風による被害を、ハザードマ みましょう。	ップや被害想定資料で確認して
① 河川による洪水の可能性	
洪水の可能性 あり・なし / 漫水深	
2) 土砂災害の可能性	
土砂災害の可能性 あり・なし	
③ 高潮の可能性	
高潮の可能性 あり・なし / 浸水深	

7

- 次の資料を、受講者に配布します。地域のハザードマップ(浸水)(グループで1枚)ワークシート(風水害)
- 「これから皆さんに自宅周辺の災害リスクについてチェックして頂きます」
- ハザードマップ上の自宅の位置を確認しましょう。
- ・ ワークシート(風水害)を記入しましょう。

ワークショップ

# <風水害>

皆さんの地域の避難先や、自 宅からの避難経路を確認す る方法を学びましょう

28

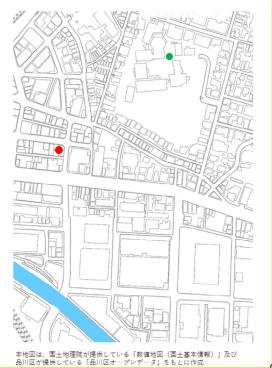
- 受講者に、「続いて3つ目のワークを行います」と宣言します。
- 「地域の避難先や自宅からの避難経路を確認する方法を学びましょう」と投げかけます。



# 風水害時の避難先・避難経路

# 【グループ作業】 <5分> 地域の避難場所を記入

- ①自宅の位置に<u>赤丸シー</u> ルを貼りましょう
- ②風水害時の地域の避難 場所に<u>緑丸シール</u>を貼り ましょう
- ※地震時の指定緊急避難場所と 水害時の指定緊急避難場所 は違う場合がある



20

### 【補足説明】

• 次の資料を、受講者に配布します。

赤丸シール(1人1枚)

緑丸シール(1人1枚)

地域の地図 (グループで1枚)

洪水ハザードマップ・内水ハザードマップ・土砂災害ハザードマップ

- 「次は、グループでの作業です」
- 「これから皆さんに自宅から避難する際の、避難先と避難経路を考えて頂きます」
- 「まず自宅の場所に赤丸シールを貼り、続いて地域の避難場所に緑丸シールを貼ります」
- 自宅の位置に赤丸シールを貼りましょう。
- 風水害時の地域の避難場所に緑丸シールを貼りましょう。
- 補足

内水

河川の水を外水と呼ぶのに対し、堤防で守られた内側の土(人がすんでいる場所)にある水を「内水(ないすい)」と呼びます。大雨が降ると、側溝・下水道や排水路だけでは降った雨を流し切れなくなることがあります。また支川が本川に合流するところでは、本川の水位が上昇すると、本川の外水が小河川に逆流することもあります。このように、内水の水はけが悪化し、建物や土地・道路が水につかってしまうことを「内水氾濫」といいます。



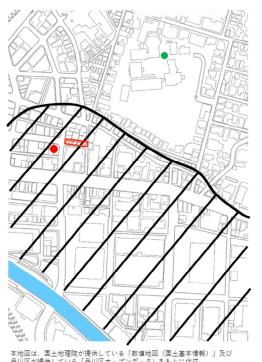
# 風水害時の避難先・避難経路

# 【グループ作業】 <5分> 危険エリアの記入

- ③ハザードマップを確認し、 浸水想定エリア、土砂災 害危険エリアを<u>黒色で囲</u> み斜線を書き込みましょう
- ④アンダーパスの位置を<u>赤</u><u>色で囲み斜線</u>を書き込みましょう。

### <確認するハザード>

- 洪水•浸水•内水
- ・高潮
- 土砂災害



30

- 「次は、グループでの作業です」
- ハザードマップを確認し、地域の地図に、浸水想定エリア、土砂災害危険エリアを黒色で囲み斜線で書き込みましょう。
- 確認するハザードは、洪水・浸水・内水、高潮、土砂災害です。
- アンダーパスの位置を、赤色で囲み斜線を書き込みましょう。 ※アンダーパス…鉄道や道路の下を通る地下道で、浸水時は水没する可能 性が高い。
- このワークの④は、ハザードマップにアンダーパスの位置が記載されている 場合に実施して下さい。

	用語の説明
洪水	台風や大雨によって、河川の水が増加し、堤防を越水も しくは堤防が決壊する等して、流れ出すこと
内水氾濫	地表水の増加に排水が追いつかずに、用水路や下水溝 などがあふれること
浸水	洪水や内水氾濫によって、家屋や道路等が水に浸かること
高潮	台風や発達した低気圧により、海面の高さがいつもより 高まること
土砂災害	大雨や地震が誘因となって土石流・地滑り・がけ崩れな どによって、生命や財産が脅かされる災害のこと
アンダーパス	鉄道や道路の下を通る地下道のこと

# 【補足説明】

• 必要に応じて、用語の説明を行います。



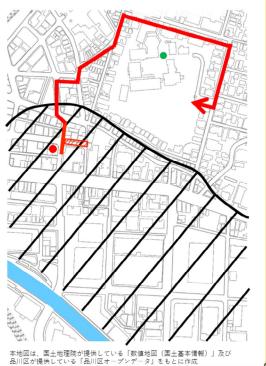
# 風水害時の避難先・避難経路

# 【グループ作業】 <10分> 避難経路の記入

⑤自宅から避難場所までの 避難経路に赤線を書き込 みましょう。

### <避難経路のポイント>

- ・川や海岸の近くやアンダーパス など浸水しそうな場所は避ける
- できるだけ広い道を通る



20

- 「次は、避難経路の確認です」
- それぞれの自宅から避難場所までの避難経路に赤線を書き込みましょう。
- 避難経路を考える際は、川や海岸の近く、アンダーパスなど浸水しそうな場所は避けるようにしましょう。また、できるだけ広い道を通るようにしましょう。
  - ※アンダーパス…道路を掘り下げて交差する道路の下をくぐる形にしたもの。
  - ※内水氾濫…市街地などに降った雨が排水路や下水管の雨水処理能力を超えた際や、雨で川の水位が上昇して市街地などの水を川に排出することができなくなった際に、市街地などに水が溢れてしまう浸水害のこと。
- [各グループの作業が終了]
- 今確認した、避難先と避難経路を、研修が終わった後に実際見ることも効果的です。
- 今まで気づかなかったことや、実は危ない場所に気づいたりすることもあります。
- そのときは、違う経路を改めて考えてみましょう。
- このワークは地域の住民の方と行っても効果的です。地域の防災力の向上の ため、活用してもらうことを伝えましょう。
- また、地域で実際に避難経路や危険箇所を確認する場合は、自主防災組織だけでなく、消防団等と連携して行うことが効果的であることを伝えます。



# ワークのまとめ

- 危険な場所を避け、安全な避難経路を 決めておきましょう
- 避難経路を実際に歩いてみると、実は 危ない場所に気づくこともあります
- このワークは地域の住民の方と行って も効果的です

33

### 【補足説明】

[各グループの作業が終了]

- 今確認した、避難先と避難経路を、研修が終わった後に実際見ることも効果的です。
- 今まで気づかなかったことや、実は危ない場所に気づいたりすることもあります。
- そのときは、違う経路を改めて考えてみましょう。
- このワークは地域の住民の方と行っても効果的です。地域の防災力の向上の ため、活用してもらうことを伝えましょう。
- また、地域で実際に避難経路や危険箇所を確認する場合は、自主防災組織だけでなく、消防団等と連携して行うことが効果的であることを伝えます。

ワークショップ

# 皆さんの自宅周辺の災害リスクを確認する方法を学びま しょう

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、研修を行う方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。

参加者の皆さんが研修後に、 地域住民の皆さんと一緒に行うと より効果的です

34

- 受講者に、「では、今からワークを行います」と宣言します。
- 「自宅周辺の災害リスクを確認する方法を学びましょう」と投げかけます。
- 受講者に、「このワークは「地域住民の皆さんと一緒に行うと効果的」と伝えて、活用するよう促します。



# ■ 自宅周辺の地震災害リスクチェック

# 【個人作業】 <5分> ハザードマップを確認し、ワークシートを記入

- ①ハザードマップ上の自宅 の位置を確認しましょう
- ②ワークシート(地震)を 記入しましょう

姿料1(編助歌材1限目)
ワークシート(地震)
■対の地域における地震等の検索を、ハワートマップや検索が定が付く機能してみましょう。 ① 規定需度
素皮
② 津波の可能性
津波の可能性 あり・なし / 浸水深 / 到連時間
③ 液状化の可能性
液状化の可能性 あり・なし

- 次の資料を、受講者に配布します。 地域のハザードマップ(想定震度)(グループで1枚) ワークシート(地震)
- 「これから皆さんに自宅周辺の災害リスクについてチェックして頂きます」
- ハザードマップ上の自宅の位置を確認しましょう。
- ワークシート(地震)を記入しましょう。

ワークショップ

# <地震災害> 皆さんの地域の避難先や、自 宅からの避難経路を確認す る方法を学びましょう

36

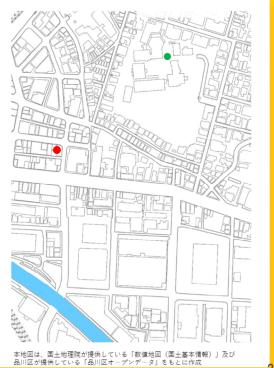
- 受講者に、「続いて3つ目のワークを行います」と宣言します。
- 「地域の避難先や自宅からの避難経路を確認する方法を学びましょう」と投げかけます。



# 地震災害時の避難先・避難経路

## 【グループ作業】 <5分> 地域の避難場所を記入

- ①自宅の位置に<u>赤丸シー</u> ルを貼りましょう
- ②地震災害時の地域の避難場所に<u>緑丸シール</u>を 貼りましょう
- ※地震時の指定緊急避難場所と 水害時の指定緊急避難場所 は違う場合がある



27

#### 【補足説明】

• 次の資料を、受講者に配布します。

赤丸シール(1人1枚) 緑丸シール(1人1枚)

地域の地図 (グループで1枚)

地震ハザードマップ (震度分布図・液状化危険度分布図・最大浸水深分布図)

- 「次は、グループでの作業です」
- 「これから皆さんに自宅から避難する際の、避難先と避難経路を考えて頂きます」
- 「まず自宅の場所に赤丸シールを貼り、続いて地域の避難場所に緑丸シール を貼ります」
- 自宅の位置に赤丸シールを貼りましょう。
- 地震災害時の地域の避難場所に緑丸シールを貼りましょう。



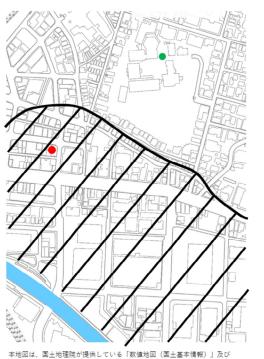
# 地震災害時の避難先・避難経路

# 【グループ作業】 <5分> 危険エリアの記入

③ハザードマップを確認し、 震度6弱以上のエリア、津 波浸水エリア、液状化の 恐れが高いエリアを<u>黒色</u> で囲み斜線を書き込みま しょう

#### <確認するハザード>

- ・震度
- 津波
- ・液状化



20

- 「次は、グループでの作業です」
- ハザードマップを確認し、地域の地図に、震度6弱以上のエリア、津波浸水エリア、液状化の恐れが高いエリアを黒色で囲み斜線で書き込みましょう。
- 確認するハザードは、震度6弱以上、津波、液状化の恐れです。
- 液状化とはゆるく堆積した砂の地盤に強い振動が加わると、地層自体が液体状になる現象のこと。



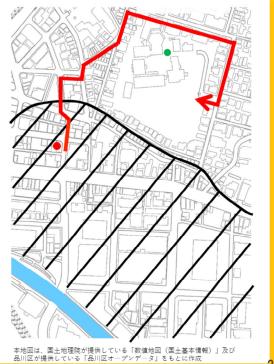
# 地震災害時の避難先・避難経路

## 【グループ作業】 <10分> 避難経路の記入

4)自宅から避難場所までの 避難経路に赤線を書き込 みましょう。

#### <避難経路のポイント>

・古い建物・石塀・ブロック塀・自 販機など倒壊の恐れのあるもの を避ける。



- 「次は、避難経路の確認です」
- それぞれの自宅から避難場所までの避難経路に赤線を書き込みましょう。
- 避難経路を考える際は、古い建物・石瓶・ブロック塀・自販機など倒壊の恐 れのある場所は避けるようにしましょう。また、できるだけ広い道を通るよ うにしましょう。
- 「各グループの作業が終了」
- 今確認した、避難先と避難経路を、研修が終わった後に実際見ることも効果 的です。
- 今まで気づかなかったことや、実は危ない場所に気づいたりすることもあり ます。
- そのときは、違う経路を改めて考えてみましょう。
- このワークは地域の住民の方と行っても効果的です。地域の防災力の向上の ため、活用してもらうことを伝えましょう。
- また、地域で実際に避難経路や危険箇所を確認する場合は、自主防災組織だ けでなく、消防団等と連携して行うことが効果的であることを伝えます。



# ワークのまとめ

- 危険な場所を避け、安全な避難経路を 決めておきましょう
- 避難経路を実際に歩いてみると、実は 危ない場所に気づくこともあります
- このワークは地域の住民の方と行って も効果的です

10

#### 【補足説明】

[各グループの作業が終了]

- 今確認した、避難先と避難経路を、研修が終わった後に実際見ることも効果的です。
- 今まで気づかなかったことや、実は危ない場所に気づいたりすることもあります。
- そのときは、違う経路を改めて考えてみましょう。
- このワークは地域の住民の方と行っても効果的です。地域の防災力の向上の ため、活用してもらうことを伝えましょう。
- また、地域で実際に避難経路や危険箇所を確認する場合は、自主防災組織だけでなく、消防団等と連携して行うことが効果的であることを伝えます。

# 安全な避難行動のポイント

# 安全な避難行動をとる上で重要なこと

#### 平常時

- 自宅周辺の危険箇所を知っている
- 災害に応じて避難する場所を決めておく
  - ✓ 行政が指定している避難場所のほか、安全な場所にある親せきや友人宅などもよい
  - ✓ 複数の避難先を決めておいた方が有効である
- 複数の避難経路を準備し、実際に歩いてみる
  - ✓ 避難先までの所要時間を確認しておく
- いろいろな避難訓練を実施する
  - ✓ 夜間や平日昼間等の時間を変えての訓練や要配慮者の避難支援訓練などもよい

#### 災害発生のおそれがあるとき

- 気象情報や避難情報など正確な情報を入手する
  - ✓ 情報の意味を正しく理解しておく
  - ✓ 情報の入手方法も事前に確認しておく
- 的確に状況を判断し、早めに避難行動に移る(率先避難)
- 避難するときは隣近所に声をかける

41

- 地域の防災リーダーとして、これらのポイントを地域の住民にも伝え、住民 それぞれが安全に避難できるようにしましょう。
- 危険箇所や避難経路の確認など、平常時から消防団等と連携することも有効です。

# 3. 安全な避難行動 - まとめ -

・安全に避難するためには、地域の災 危険性を把握して、地域の住民と一 緒に避難経路を考え、災害時には避 難を支援することが重要です

42

#### 【補足説明】

• 中項目「3. 安全な避難行動」で学んだことをまとめます。

# まとめ

- ・自助・共助の部分は自主防災組織がその 啓発も担います
- 避難についての知識と情報を理解し、住民 一人ひとりがいつ、どこに避難するか判断 できるように啓発しましょう
- ・安全に避難するためには、地域の災危険性を把握して、地域の住民と一緒に避難経路を考え、災害時には避難を支援することが重要です

43

#### 【補足説明】

• この単元、「災害発生の危険性と避難」で学んだことをまとめます。

# 避難に関する情報チェックシート

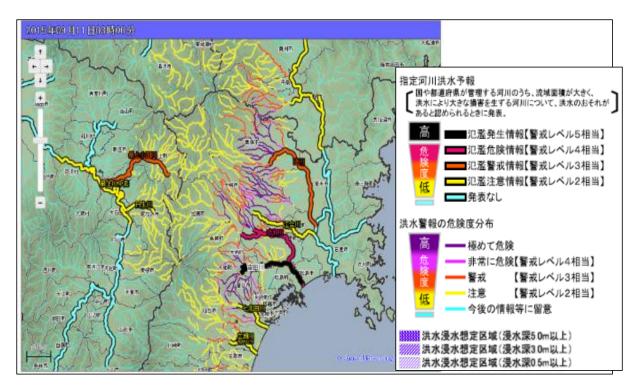
区分	警戒レベル	情報の名称	とるべき行動
避難情報等	3	避難準備•高齢者等避難開始	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼 児等とその支援者は、避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。
	4	避難勧告	速やかに避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの 安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
		避難指示(緊急)	
	5	災害発生情報	すでに <b>災害が発生</b> している状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。
洪水に関する情報	2	氾濫注意情報	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの <b>避難行動を確</b> <b>認</b> しましょう。
		洪水警報の危険度分布(注 意)	
	3相当	氾濫警戒情報	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼 児等とその支援者は、避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。
		洪水警報	
		洪水警報の危険度分布(警 戒)	
	4相当	氾濫危険情報	速やかに避難先へ避難 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの 安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
		洪水警報の危険度分布(非常 に危険)	
	5相当	氾濫発生情報	すでに <u>災害が発生</u> している状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。
		大雨特別警報(浸水害)	
土砂災害に関する情報	2	土砂災害に関するメッシュ情報(注意)	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの <b>避難行動を確</b> <b>認</b> しましょう。
	3相当	大雨警報(土砂災害)	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼 児等とその支援者は、避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。
		土砂災害に関するメッシュ情報(警戒)	
	4相当	土砂災害警戒情報	速やかに避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの 安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
		土砂災害に関するメッシュ情報(非常に危険)	
		土砂災害に関するメッシュ情報(極めて危険)	
	当 相	大雨特別警報(土砂災害)	すでに <b>災害が発生</b> している状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。

注1) 市町村が発令する避難勧告等は、市町村が総合的に判断して発令するものであることから、警戒レベル相当情報が出されたとしても発令されないことがある。

注2) 各種情報は、警戒レベル1~5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

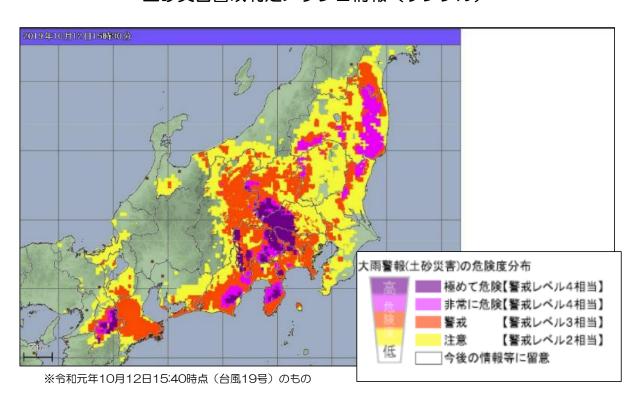
# 防災気象情報の参考画像

#### 洪水の危険度分布 (サンプル)



※気象庁HP 洪水警報の危険度分布の表示例より

### 土砂災害警戒判定メッシュ情報(サンプル)

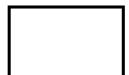


# ワークシート(風水害)

自分の地域における大雨や台風による被害を、ハザードマップや被害想定資料で確認して みましょう。

# ① 河川による洪水等による浸水害の可能性

洪水や内水氾濫等による 浸水害の可能性 あり・なし 浸水深



## ② 土砂災害の可能性

土砂災害の可能性 あり・なし

## ③ 高潮の可能性

高潮の可能性 あり・なし 浸水深



# ワークシート(地震)

自分の地域における地震時の被害を、ハザードマップや被害想定資料で確認してみましょう。

① 想定震度

震度

② 津波の可能性

津波の可能性あり・なし

③ 液状化の可能性

液状化の可能性 あり・なし